



【墮涙碑】福井市グリフィス記念館（福井市中央3-5-4）
S51年福井青年会議所が市立図書館庭に建立。H27移転。

撰文・藩校明道館助教吉田東篁
墮涙碑（だるいひ）は、日下部太郎の異郷での夭折（ようせつ）を悼み、恩師であり友人でもあるグリフィスとの絆を語り継ぐため建立された。撰文は、橋本左内（はしもとさない）の師であり福井

だるいひ 墮涙碑

まなびや



日下部 太郎

日下部太郎とグリフィス

～ 二人の運命の出会いが残したもの ～



W・E・グリフィス

日下部太郎は、1867年に福井藩で初めての海外留学生としてアメリカに渡り、ラトガース大学で学びました。留学生としての使命と日本人としての誇りを忘れることなく日夜勉学に励み、優秀な成績を修めた日下部ですが、貧しい生活の中で無理に勉学に励んだため病に倒れ、卒業を目前にして26歳の若さで亡くなってしまいました。

留学先で日下部の先生であり友人でもあったウィリアム・エリオット・グリフィスは、日本での活躍前に亡くなった日下部のことが忘れられず、福井行きを決断します。グリフィスは、福井の藩校である「明新館」で、英語や理科などを教えました。熱心で優しいグリフィスが、当時の福井の人々に慕われていたことは、亡くなる2年前に再び福井を訪れたときに福井の人々から大歓迎されたことからもうかがえます。廃藩置県後、グリフィスは福井から東京に移り、大学南校（後の東京大学）で教育を行いました。

時代は変わり、福井青年会議所のメンバーが日下部とグリフィスの友情や功績に心を動かされ、日下部の足跡を訪ねるためにアメリカに渡り、交流が再開しました。その後、福井市立図書館の庭（現在は福井市グリフィス記念館敷地内）に日下部太郎墮涙碑が作られました。また、（公財）日下部・グリフィス学術・文化交流基金が設立され、今も国際交流を盛り上げる事業が続いています。福井大学とラトガース大学とは、姉妹大学となっています。ラトガース大学のあるニューブランズウィック市と福井市、ニュージャージー州と福井県も、それぞれ姉妹都市となっています。

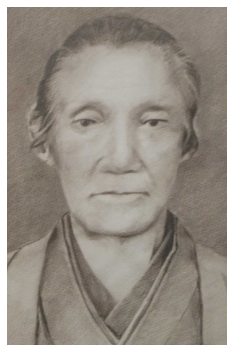
【福井青年会議所提供資料より】

藩校明道館の助教を務めた「吉田東篁（よしだとうこう）」。東篁は、若くし亡くなった優れた教え子の死を惜

しみ、涙を流して書いたと言われている。二人の運命の出会いが、現在でも姉妹都市として続いています。

私塾や藩校で明治維新を担う人材を育てたよしだ とうこう

吉田東篁



▼吉田東篁…一八〇八（文化五年）年～一八七五（明治八年）年・福井藩士。

福井藩の学問所正義堂で句読師として儒学を教える一方、私塾を開き、有能な人材を育てました。また、儒学者として水戸藩の藤田東湖や、小浜藩の梅田雲浜とも交流を持ちました。

一八五五（安政二）年、藩主松平春嶽が藩校明道館を創設すると、助教に任命されます。学問の実践を重んじた東篁の門下からは、藩主の側近として活躍した鈴木主税や橋本左内、明治政府で活躍した由利公正、自由民権運動の指導者杉田定一など、優秀な人材が巣立って行きました。